様式３

2020 年度　傾斜的研究費（全学分）　研究報告書

【研究代表者所属】: 都立産業技術大学院大学　産業技術研究科
【研究代表者氏名】: 吉田敏
【研究代表者氏名フリガナ】: ヨシダサトシ
【研究代表者職】: 教授

【国内研究分担者（所属、氏名、職）】
・成田名誉教授
・産業技術研究科、廣瀬准教授
・産業技術研究科、大崎助教
・産業技術研究科、海老澤特任教授
【国外研究分担者（所属、氏名、職）】
なし

【研究課題名】:
製品の感性面からの評価手法の開発

【研究実績の概要（600～800 字程度で記入。図、グラフ等の使用も可。）】

本研究は、製品やシステムの機能面や性能面の評価手法に加え、感性面の評価手法を開発するものである。そのため、社会に浸透していくシステムのユーザーの受け入れ方を精査し、機能面や論理面だけではなく、感覚的に受け入れられていく面を捉えることを試みたものである。

具体的には、テレワークの浸透を取り上げるものである。2020 年に世界的なパンデミックが起こり、様々な生活や産業などについて大きな影響が出ている。その中で、ビジネス領域において主な変化の一つとして、テレワークを象徴とした業務形態の急激な変化が起こっていることをあげることができる。企業によっては、大幅に事務所面積の縮小を行い、これまでの事務所におけるビジネス上の機能の根本的な見直しが成されている可能性を示唆している。

一方、テレワークについては、ここ数年、中央官庁などを含み、様々な形で議論が進んでおり、徐々に注目される傾向があったといえる。そのため、パンデミック以前からテレワークは少しずつ浸透しつつあったが、パンデミックの中で、かなりの人数をテレワークに切り替える企業が散見されるようになった。徐々に進んできたテレワークに関する理解と、パンデミックに拠る急激な実践が混在し、今後の向かうべき方向性については、明確な示唆が成されていない面を否定できないといえよう。

本稿の目的は、建築が使い手の活動に即した場の提供を基本とすることに着目し、その使い手の活動の特徴がどのように建築に求められる内容に影響を及ぼすのかという点について、理解する手法を開発することである。具体的には、前述の点から、建築の代表的な用途でもある事務所建築を対象としていく。特に、一つの試みとして、複数の産業を対象に多くの先行研究がある構成要素間相互依存性の視点に絞り、対象となるユーザー側の事業を考察し、建築に対する要求内容の一側面を客観的に把握するための手法を開発していくものである。

研究活動については、国内のリーディングカンパニーである一つの不動産会社に協力して頂き、研究代表者が中心となって当該企業の担当者の方々と議論を進めたものである。

【学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）】

なし

【論文発表又は著書発行（発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入）】

・査読論文１編

吉田敏、藤田大樹、「建築に対するユーザーの活動の設計思想から見た要求の把握手法の開発、―COVID-19 の影響に拠るテレワークの傾向と業務構成要素相互依存性についての考察―」、日本建築学会論文集（2021 年 2 月採択決定）

【作品等】

なし

【科学研究費助成事業への応募状況、採択状況】

なし

【国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

なし

【受賞等】

なし

【その他社会貢献】

[公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]

なし

【研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況】

（工業所有権の名称、発明者、権利者、工業所有権の種類・番号、出願年月日、取得年月日）

なし

【研究分担額】

（研究代表者・分担者名、所属、金額（円））

・（研究代表者：吉田敏、産業技術研究科、全額）